



「未来志向」「ONE TEAM」で、JR産業に「安心」を取り戻そう！

2 0 2 2 年 3 月 1 0 日

日本鉄道労働組合連合会

J R 西 労 組 第 4 回 団 体 交 渉

地上職(駅・技術・医療)の待遇改善を強く主張

「未来をつくる」ため、人財への投資を訴える！

J R 西 労 組 中 央 闘 争 委 員 会 は 3 月 1 日、2 0 2 2 春 季 生 活 闘 争 の 第 4 回 団 体 交 渉 を 行 い、申 1 3 号「総合生活改善等に関する申し入れ」について協議。特に組合員からの要望が多い地上職の待遇を改善すべく、コロナ禍に対する改善要求と職務手当、その他の賃金・手当関係について強く会社に訴えた。

コロナ禍に対する改善要求 2 項目と職務手当に対する要求 6 項目、その他の賃金・手当関係について協議。中央闘争委員会は、「責任ある担務に就いても、働きに応じた手当が支給されず、働きがい・やりがいを感じられないため、モチベーションが上がらないとの声が多い。会社を支えるのは組合員であり、『未来をつくる』ために人財への投資は不可欠。地上職のモチベーションを高めるためにも、手当の新設や増額が必要」と主張し、会社に対して要求実現を強く求めた。

一方会社は、「様々な業務に対して、それぞれの固有の困難性に応じて、手当を設定しており、賃金制度を見直した際にその一部を基本給に包含し、全体の体系を整備してきた。また、この間の議論により対象者の拡大や増額などの必要な見直しを行ってきたものである。」とこれまでと変わらぬ回答に終始した。

中央闘争委員会は、次回交渉でも「年度初における基準昇給の完全実施」について、会社の考えを質すとともに、コロナ禍においても産業としての社会的使命を果たし続けている組合員に光が当たるよう、交渉を強化することとしている。